

分科会 1

【まちづくりの方向性】

- ・多様性を尊重し，共に認め合い，支え合うまちづくり
- ・だれもが自由に交流したくなる，大きく広い「間口」を持った居場所づくり
- ・活力や安らぎを得ることができ，活力や安らぎが連鎖する居場所づくり
- ・地域での関わりを深め，災害時において助け合えるまちづくり

【基本的取組】

- ・福祉，子育て，産業，医療等，多様なニーズに対応する，様々なコーディネーターを配置する。

※具体的なイメージ：－

- ・災害時の避難場所において，多様なニーズの方が落ち着いて過ごすことのできる場所を確保する。

※具体的なイメージ：福祉施設を避難所として活用する。

子連れの方や，声や物音に対する寛容さを求める取組を実施する。

- ・車いすやベビーカーの利用者，視覚障害者等の多様なニーズを考慮し，誰もが安心して移動できるよう，歩道や道路の整備を促進する。

※具体的なイメージ：車いすユーザーやベビーカー利用者は「段差がない道路」が利用しやすいが，視覚障害者は「段差がない道路」は目印がなく，道をイメージできず利用しにくい。様々な視点から相反するニーズにも対応できるような環境整備を促進する。

- ・ひとりひとりが共感し合うことのできる場をつくる。

※具体的なイメージ：「求めること（需要）」「できること（供給）」を貼ることができるマッチング掲示板（オンラインでもあり）

オンライン上のアバターであっても，当事者同士で話せる場合は，深い共感に繋がる。

- ・障害を抱える方だけでなく，難病の方にも配慮した共生社会の充実のため，最も困っている人が生活しやすいまちづくりを共通認識とする。

※具体的なイメージ：感覚過敏の方が，防音でサッカーの観戦ができるブース

難病に罹患した場合，就労に課題があるケースが多いことから，理解促進支援等の取組を進める。

【まちづくりの方向性】

- ・子どもたちが互いを尊重し、認め合い、支え合うことのできる心の壁のない環境づくり
- ・すべての学校における、バリアフリーの徹底

【基本的取組】

- ・子どもたちが、自分と他者の違いを自然に受け入れることができ、多様性について「気づき」を得ることのできる交流機会や教育体制を充実させる。

※ 具体的なイメージ：ふれあい給食の拡充（外国人も含めた多様な背景の人たちと交流）。服装・髪型等の制限を緩和する。

- ・子どもたちに多様性を伝える人財（当事者）を増やすための取組を実施する。

※ 具体的なイメージ：多様な当事者を対象として、研修を実施する。

- ・だれもが、同じ環境で過ごすことができる（学校）環境を整備する。

※ 具体的なイメージ：学校にはスロープがあっても、学童クラブに設置されていないケースもあり、その場合、車いすを利用する子どもたちは、学童クラブの利用を断念せざるを得ない。

テーマ：子育てを行う親への支援

【まちづくりの方向性】

- ・安心して子どもを産み、育てることのできる環境整備

【基本的取組】

- ・市民にとって身近な場所で貧困対策や虐待防止策等も含む、子育てに関する包括支援サービスを充実させる。

※ 具体的なイメージ：児童館等に子育て包括センター機能を置き、保健師、助産師、ソーシャルワーカー等を常駐させる。

- ・行政と民間が連携した子ども・子育て施設の整備やサービスの展開を促進する。

※ 具体的なイメージ：離乳食だけを用意した「おしゃべり会」（民間のノウハウ・行政の財政支援）
パパ・ママのためのオープンチャット（民間のノウハウ・行政の財政支援）
民間企業による訪問サービスを活用し、パパ・ママの空き時間を創出する。

- ・子育てに対する寛容さの醸成を目的とした広報・啓発を進める。

※ 具体的なイメージ：子育てにおける精神的負担を和らげるため、住宅街における子どもの声、路上で遊ぶ子供たちや公共交通機関でのベビーカーの利用などに対する理解促進。

【まちづくりの方向性】

- ・ 学び・食・遊び等を通じて、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくり
- ・ 子どもたちが安心して安全に過ごすことができる、地域に開かれた学校づくり

【基本的取組】

- ・ 年齢差，能力差，障害の有無などに対する心理的な壁を感じる事が無いよう，様々な背景の子どもたちが一緒に過ごす機会を増やす。
※ 具体的なイメージ：校内における級間交流の取組や，他校の部活動に参加することのできる制度を創出する。
- ・ 食物アレルギーを持つ子どもたちが，多くいることを前提とした給食の提供や，アレルギー対応専用調理室の整備を進めることに加え，アレルギーについての教育・研修プログラムを充実させる。
※ 具体的なイメージ：食物アレルギーのため，学校の給食を食べられない児童もいる。
アレルギーについての食育プログラムを充実させることで，子どもたちも含め，学校全体での理解を深める。
- ・ 学校のセキュリティを保ちつつ，地域に開かれ，地域と協働した学校づくりをしていくことで，学校運営に地域が関わりを持つ等，地域コミュニティの重要性と学校のセキュリティをバランスよく両立させる。
※ 具体的なイメージ：子どもたちに対して「知らない人に挨拶をしてはいけない」とだけ教えるのではなく，学校と地域が連携することで，自然に子どもたちが地域の方と挨拶できる環境を作りつつ，子どもたちの身を守る，防犯のための指導・教育は徹底する。

【まちづくりの方向性】

- ・ 18歳以上も含む，若い世代の居場所づくり
- ・ ひとりひとりに向き合い，課題が解決できる相談・居場所づくり

【基本的取組】

- ・ 若い世代が共感を得られることのできる居場所づくりを促進する。
※ 具体的なイメージ：「共感」が得られる同世代に相談することのできる仕組みを整備する。
- ・ 若い世代が行政計画や地域の取組に参加しやすい環境を整える。
※ 具体的なイメージ：SNS等を活用した，行政計画や地域の取組に若者が参加しやすい仕掛け。
行政計画等について学校で意見を募る。
- ・ 若い世代にシンボルとして受け入れられる大規模なイベントを促進する。
※ 具体的なイメージ：まちのシンボルとなる大規模なイベント（例：「鬼太郎フェス」）を開催し，観光にも活用する。
- ・ 多分野で活躍できる「人財」を調布で生み出すため，若い世代の人財育成を展開する。
※ 具体的なイメージ：18歳以上も含む若い世代を対象にした，就労支援やコーディネーター
- ・ 困難を抱えた青少年の課題解決を目的に，いつでも相談できる居場所を拡充していく。
※ 具体的なイメージ：CAPS機能の拡充及び全市的な展開を実施する。
ステップアップホーム事業等，切れ目ない支援サービスを継続的に実施する。

【まちづくりの方向性】

- ・ 市民が行きたくなる交流の場・施設の整備

【基本的取組】

- ・ 既存の設備を活用し、まち自体を装飾することで交流の場を演出をする。
- ※ 具体的なイメージ：歩行者用信号機の人シルエットを青＝鬼太郎、赤＝目玉のおやじにする。
下石原八幡神社の軒下に猫娘のオブジェを設置する。
- ・ 遊び方や利用方法を限定しない、居心地が良く、また、そこに集まる人が交流することができる「仕掛け」がある公園をつくる。
- ※ 具体的なイメージ：たこ公園は遊具で遊ぶ子どもだけでなく、ベンチでお弁当を食べる人など、様々な人が集まっている。
ユニバーサルデザインにこだわるだけでなく、地域によって個性的な公園を整備することも大切。
限定的な人しか使えない遊具があっても良いので、様々なタイプの公園を設置する。

【まちづくりの方向性】

- ・ 「デジタル化」による、ひとりひとりに「伝わる」情報が豊かなまちづくり
- ・ 「デジタル化」による、より気軽に相談・交流できるまちづくり

【基本的取組】

- ・ デジタル技術を活用し、より多くの市民の声を聞くことができ、より手間なく市民に情報を伝えられるような仕組みを整備する。
- ※ 具体的なイメージ：Zoom・LINEによる相談機能や、AIが答えるチャットボットを取り入れる。
- ・ 当事者に有益な情報を確実に伝えるため、ニーズにあった情報発信や分かりやすく「伝える」工夫をする。
- ※ 具体的なイメージ：調布市公式アプリを製作し、利用者がカテゴリごとに選択できるようにする。
- ・ 誰もがデジタル化に対応できるよう、デジタルディバイド（情報格差）の支援体制を図る。
- ※ 具体的なイメージ：地域の大学生等を活用して、支援する窓口・場所を整備する。